

逃^のれられない問題としての

「女性の生きづらさ」

日時 2023年2月23日(木・祝日)
 時間 受付開始 13:00～
 パネルディスカッション 13:30～17:30
 場所 富士見文化会館1階 101号室
 神奈川県大和市中中央5-2-29
 小田急江ノ島線・相鉄線「大和駅」徒歩5分
 参加費 一般1,000円 学生500円(高校生以下無料)
 申し込み不要ですので、直接会場にお越しください。

昨年の教育講演会を出発点としてこの1年、Ed.ベンチャーでは「女性の生きづらさ」について様々な観点で議論をしてきました。その議論を通して明らかになってきたことは、「家長制度につながる家庭の姿」「女性の自立を阻む社会的制度や家庭内での性別役割分業」「男性の無意識の加害性」などでした。そして、議論の過程で私たちが獲得した方法論は、個々が生きてきた時々の場面における自己を掘り返す作業に耐えつつ言葉にしていくことでした。やっと私たちは、「女性の生きづらさ」を自分事として語り始めているのです。今年の教育講演会では再び、「女性の生きづらさ」の実態を、個々人が逃れることのできない問題として、自身の言葉によって照射していきたいと考えています。講師の力もお借りしながら、より深く語り合う場としたいと思います。

パネラー

Aさん

20代女性、大学院生、卒論で家族をテーマに執筆したことから、女性の生きづらさに強い関心を持ち、引き続き修士論文に取り組む



Bさん

40代女性、行政職、子どもの頃にリストカットを経験、「当たり前」とされる女性像を根拠に投げかけられる言葉に違和感を感じ続けている



Cさん

50代女性、管理職、離婚を経験、障がいのある子を子育て中、折り重なる生きづらさをどのように経験したらよいのか奮闘中



Dさん

50代女性、高校養護教諭、女生徒の行き詰る状況にどのように対峙するのか、自らを振り返る作業を通して検討中



Eさん

60代男性、男性の加害性の救い上げ方を検討したいとパネラーを希望



講師

本田 由紀

(東京大学大学院教育学研究科 教授)

『「家庭教育の隘路—子育てに脅迫される母親たち」(勁草書房、2008年)、『社会を結びなおす—教育・仕事・家族の連携へ』(岩波ブックレット、2014年)など、家族、女性に関わる研究を多く手がける。近著『「日本」ってどんな国?』(ちくまプリマー新書、2021年)でも「ジェンダー」をとりあげて解説している。

